



● STORY

小学校3年生の時、南正文^{まきのり}少年は父の仕事場で機械に巻き込まれ両腕を失った。からかわれ引きこもり、絶望して死ぬことも考えた中学生時代、人生を変える出会いをする。

大石順教尼——その人もまた、両の腕がなかった。17歳で養父の凶刃により腕を失いながらも、口筆で書画を描き、結婚と離婚を経て出家得度。京都の寺の住職となり、体の不自由な人のための相談所を開いていた。

弟子になった正文は「一人であなさい」という師の言葉に従い、大阪から京都まで3時間、5回乗り継いで寺に通った。そして、慈愛に満ちた修行と順教尼の生き方に接して人生に開眼し、自らも口に筆をとり画家の道を歩む…。

天から見れば

絶望の淵にいた少年を救った運命の出会い
生きることの真髓を描いた感動のドキュメンタリー



2011年日本
監督：入江富美子
出演：南正文・南弥生・大石順教尼・石川洋・小林綾子（再現映像 特別出演）ほか
配給元：株式会社トータルプレイズ

「天から見れば」（再生時間 95分）
※日本語字幕付き版・英語字幕版もあり、自主上映会の開催も承っております。

<お問い合わせ先>
株式会社トータルプレイズ 映画配給チーム
movie@totalpraise.jp

オンデマンドでの視聴購入 1,650円（税込）
<https://vimeo.com/ondemand/tenkaramireba>
※購入より72時間視聴可能



レビュー

かふくいちに
禍福一如——不幸と幸せは紙一重

すべては心の持ち次第。大石順教尼の教えを受けた最後の弟子・南正文さんの人生と、その奥に流れる師の生き方の真髓をとらえた珠玉のドキュメンタリー映画。

「世界障害者デー」のイベントとして、ニューヨーク国連本部にて上映された作品です。

「できない事としないことは違うんだよ」

順教尼の厳しくも慈愛溢れる導きにより、絶望の淵にいた少年は、自分を信じる強さと、同時に無力を悟り、生かされていることへの感謝を知るようになります。

時に人の手を借り、時に血の滲むような努力で経験を重ね、日本画家となった南正文さん。絵と向き合う姿勢、生活習慣から人への接し方で、師に恥じない生き方を貫こうとする強い使命感が感じられます。二人の生き様に感銘を受けた監督が「命がけで」制作した本作は、オンデマンドで世界中どこでも視聴できます。